

社会的ネットワークの機能と性質:「つなぐ」役割の検証

内田由紀子(こころの未来研究センター准教授)・竹村幸祐(こころの未来研究センター特定研究員)

■研究目的

本研究は、人と人とのつながりが形成される過程と、つながりの中でもたらされる社会的サポートの効果の検討を目的としている。本研究では、農業コミュニティにおける社会的ネットワークの構築スキルと、その機能に注目した。日本文化の相互協調的対人関係は、農業コミュニティのあり方をひとつの基盤として形成されてきたと考えられている。そこで、農業コミュニティにおける社会的ネットワークの構築・維持を職務のひとつとする普及指導員の役割に注目し、普及指導員を対象とした調査を実施した。

■背景

農業コミュニティにおいてネットワーク形成を支援することの重要性やそのための普及指導員のスキルについて検討するべく、近畿農政局ならびに近畿ブロック普及活動研究会の協力を得て、2009年度に近畿6府県の普及指導員を対象とする調査を実施した。その結果、普及指導員が実施する多種多様な支援の中でも、関係機関との連携調整や農業者同士の連携の支援など、社会的ネットワークの構築・維持に関わるタイプの支援が特に効果を持ちやすい(農業コミュニティの様々な問題を解決しやすい)ことが明らかにされた。また、こうした支援を行うための普及指導員自身のスキルの獲得に関連して、社会的ネットワークに関係すると考えられる特質(特に、人を育成・統率する力)を持つ「先輩普及指導員」が身近に存在することの重要性が明らかにされた。以上の知見は、農業コミュニティにおいてネットワーク形成を支援することの重要性を示すとともに、そのためのスキルが伝達される条件(具体的には、On the Job Training

の有効性)に関して重要な示唆を与えている。しかしながら、調査対象が近畿6府県の普及指導員に限定されるなど、大きな限界を抱えていた。

■本年度の調査

そこで2010年度には、全国農業改良普及職員協議会の協力を得て、全国の普及指導員を対象とした調査を実施した。この調査の実施により、主に次の3点が可能となる。第1に、2009年度の調査に参加した近畿の普及指導員にも改めて調査に参加してもらうことで、2009年度から2010年度にかけての時系列変化を検討することが可能になる。これにより、普及活動が農業コミュニティ内の社会的ネットワークの発展に実際に寄与しているかどうかを検討することができる。第2に、全国の普及指導員を対象にした調査の実施により、2009年度の調査で得られた知見が近畿6府県を超えて一般化できるか検討することが可能となる。第3に、これに関連して、地域ごとに異なる効果が得られた場合、その地域に特異的な結果をもたらす条件(地域社会の特徴など、普及指導員の活動にとって環境サイドの条件)の効果を検討することが可能となる。

この全国調査のデータの解析は現在進行形で進展中であるが、上述した近畿調査の知見が全国のデータでも概ね再現されることが確認されている。すなわち、様々な普及活動の中でも、社会的ネットワークの構築・維持に関わるタイプの支援が特に効果を持ちやすいこと、また、社会的ネットワークに関係すると考えられる特質を持つ普及指導員の存在が、本人以外の周囲の普及指導員にもポジティブな影響をもたらすことが確認できている。今後、上述の時系列変化の分析や、地域の特色

のもたらす効果の検討など、さらに詳細な分析を進める予定である。

また、2010年度には、全国の普及指導員を対象とした調査だけでなく、他種の公務員(事務職など)を対象とした調査も実施された。この調査は普及指導員を対象とした2010年度の全国調査と比較可能なように設計されている。このデータを用いて普及指導員と他種の公務員を比較することにより、普及指導員の特徴をより明確にすることが可能となる。このデータの分析も現在進行中である。

■対外活動ならびに成果の発表

2009年度の近畿調査の結果は、学術専門誌『社会技術研究論文集』に掲載された(掲載は2011年4月)。ただし本プロジェクトでは、研究成果を学術専門誌に発表することだけでなく、現場の普及指導員に調査結果をフィードバックすることを重視している。そこで、2010年度には、岡山県ならびに山形県にて普及指導員の研修大会に参加し、調査結果をフィードバックする講演を行った。同時に、研修大会にて調査結果に関する質疑応答を行い、現場の普及指導員の視点から本調査の結果がどのように理解されるのか、情報収集を行った。また、同じく調査結果に基づいた論考を普及事業の機関誌である『技術と普及』に掲載するとともに、調査結果の詳細をまとめた報告書をWEB上に掲載し、近畿農政局などの協力を得て広く告知した。なお、2010年度の全国調査の結果から、『技術と普及』の論考は少なくとも1,000名の普及指導員に読まれたことが確認されている。